

庫

新板

伊勢物語
往任入上

九十番

318

庫文閣内			
二〇二函	二册	三三三三三	和書類
一九架		一號	

庫文官政太			
二	二〇二函	三三三三三	和書門類
	一九架	一號	



内閣文庫			
番號	和	32331	
冊數	2 (1)		
函號	202	318	

202-318

共二



函
265



Handwritten text in a cursive script, possibly a list or account, enclosed in a rectangular border. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and difficult to decipher due to its cursive nature. The text appears to be organized into several columns or lines, with some words or phrases being repeated or similar in structure. The overall appearance is that of a historical document or ledger.

MS. A. 1. 1. 1.

10

じつたさうのわらうありしてなうれ京家
 せごの里よきうりててくまうりのよあり。
 うの肉とふひやな媚なめつるおけしうす
 みたり。これたこがらみくおりおもほえど。
 かつさうよとさうてありそれむら
 まどひりたり男のさしうらうりむのよ
 うとらりて。しんさうさうさうのたこと
 れぶずりのうりきぬとむいりけり
 新琴 奥列巻国府ノ名物
 かせごれいわりしんさうりさうも
 のぶさうさうさうりさうさう
 となんどらうさうさうさうさう
 うさうさうさうさうさうさう





古今
みちのくれ志のふりぢらすりたきゆへり
さうれうめりーわきなうれくよ

少りうこのむん人なり。けり一人をかくら

河原たの原源融寛平七年八月薨七十三於在中お非違先達如何

三 ちやうきわしとるんしけり

青男ありたり。あゝの系とされば系と人のあ
まじらしまゝさけりけり。あゝの系にまゝさり
まゝ世人よまゝいまりたり。まゝ人まゝさりまゝ
まゝまゝりたり。ひとの系もあゝさりまゝし。それ
まゝのまゝ男。うら物まゝひて。まゝの系とるん
思ひまゝ。あゝの系とるん。まゝの系とるん。まゝ
おまゝまゝ。あゝの系とるん。まゝの系とるん。まゝ
まゝの系とるん。まゝの系とるん。まゝの系とるん。

三
 じう。たういなるおもりのうらさうし
 おかのらふさうし。ひらけおひり
 のとあうさく

おひあぶじうの音はなりーん
 ひーあものよ六袖とつてき
 二条のきさえらう。まごみごりもは
 うまつりさうなごだん今さくお
 しけらえのこさるり



目
びらびらと花の葉はまがらもなれま
おりまがらひるおの村よまじりありま
うれしういふもあはれびらびらと
ふもいふびらびらと月のはらばらの
ほろよがらうまはれまらあはれま
まのあはれまはれまらあはれま
まはれまはれまらあはれま
けるまのまらびらびらと梅の花はら
らららららららららららららら
まはれまはれまらあはれま

うらららららららららららららら
のうららららららららららららら
い

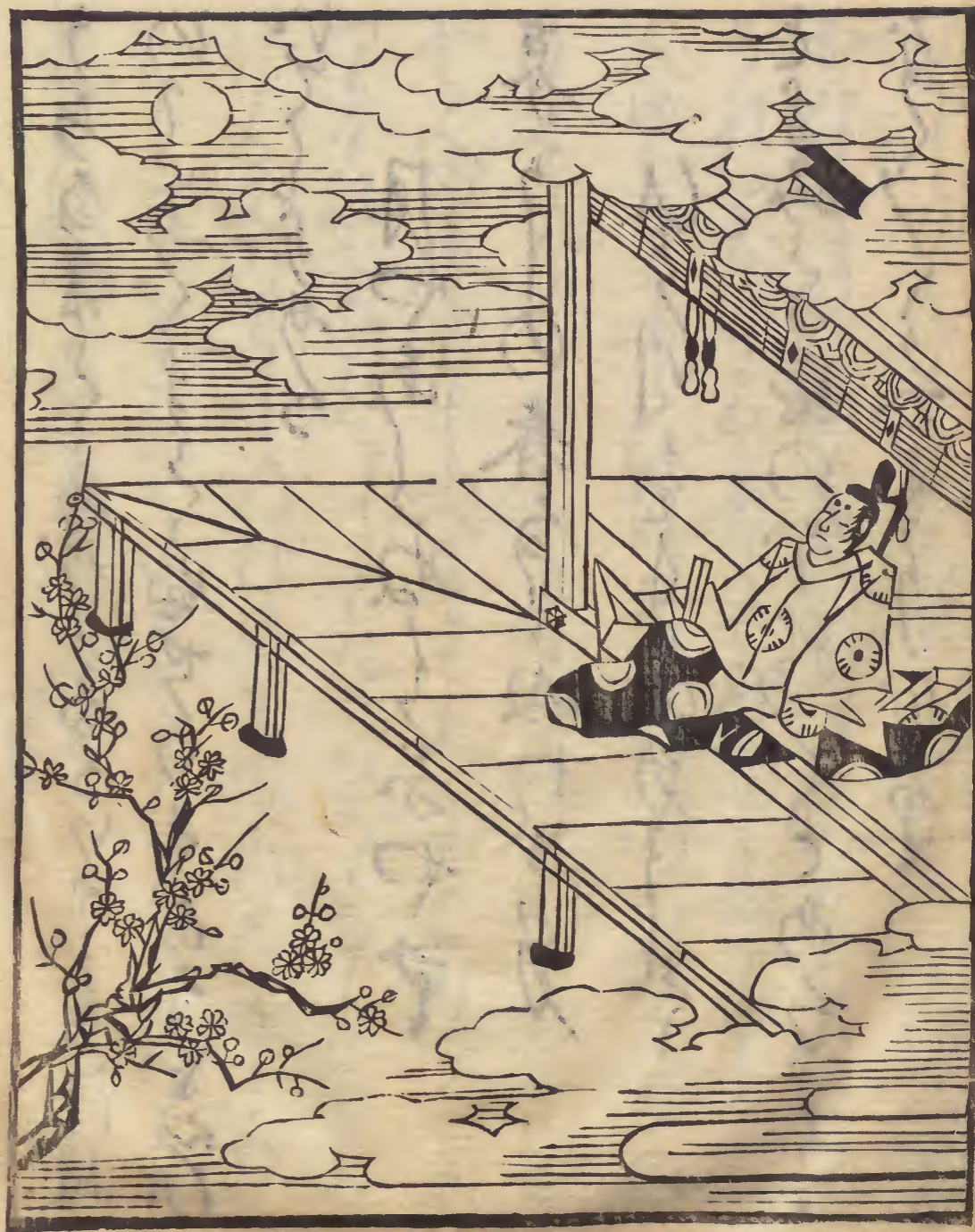
月やあはれまらあはれま

まらららららららららららららら

いとまらららららららららららら

とらららららららららららららら

な



五 背勇方をかりピン 一 のみ糸わたりよいと志
 のひていぬをちよみそらるる麻るれがむいなり
 もえりてわらうくのうもあなをらつひちれ
 多づきもあまひたりん 一 けくもあななど
 ぬびうさるりたれがある 一 つけくさう乃
 かよひちよあまよんとすんくまのしをたれ
 たづけとあまをえりたり。さて一ある
 人 一 ぬわがあまひちれせぬあまのりを
 ちと
 よひくごふうちもねるのん
 とよあまをたれらむいさむをたりあはし
 ゆるしてたり。二糸のちよあまのびて素むとらと
 よのあまをたれらむいさむをたりあはし



六
 昔男もつりおのそつうまうしりけりよふ年を
 登りよまひりりたるもつりよふ年を
 ていさくそつにけりあつていさくそつにけり
 とおとく伊ぬめをたのふよふ年をいさくそつ
 寄とつりおのそつうまうしりけりよふ年を
 さいおのそつにけりあつていさくそつにけり
 ありて神さといさくそつにけりあつていさくそつ
 ありて神さといさくそつにけりあつていさくそつ
 りさくそつにけりあつていさくそつにけりあつて
 りさくそつにけりあつていさくそつにけりあつて
 はやひとつりよふ年をいさくそつにけりあつて
 神さといさくそつにけりあつていさくそつにけり

よみおそくしめはあせらばとてなげたうひあ
あつむうなみぶと人のよひー時

家とてこえんくまろんあ中の一物と

ち子元世元年四月の中

あまじき二条のまきさのいとしこれあけり神りと
よつとまうまうらやうまうおのうまひらと
ちのよめでてくねうけきをもみそみてに
ひくしてさうさうとほやうまのあと
どたらうらうらひのち細きまこまうらよと
肉すのりあまよびうなく人あると空つあ
てとめくとりえしたまうてがりをあまう
およとまうらなむらとまうらとまうらと
まのあまうらうけらとまうらと





七
 びーおとこあやとけり。案うわりわ
 びく。ゆづるらうらさくろろ。伊勢に
 もりのあつひは海つとどゆくよらま
 のひやうらうくきまのよらま
 いまーくすだひらさろ
 後撰 こひーあまうらま
 うもえふなかんが那
 とらんよあうけら



八
 びー。れとごありとたり。来やとみう
 うとん。あつまのいよあてと
 みとらういせしあむいすうひ
 とりあつらさむいなり。あつもの
 けあつものだきよぐりうのきうい
 へ
 ああれなりあつものいせしあむいすうひ
 せうらういせしあむいすうひ

八

八

びーねとありたりての男がたふさふさ
 のて國にたふさふさの國にたふさふさの
 ちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ
 のちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ
 てのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ
 たり。みうこのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ
 たりね。うこのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ
 あり。ちひさかたふさふさのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ
 してちひさかたふさふさのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ
 ちひさかたふさふさのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ

けり。ちひさかたふさふさのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ
 してちひさかたふさふさのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ
 ちひさかたふさふさのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ
 ちひさかたふさふさのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ
 ちひさかたふさふさのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ

かしてちひさかたふさふさのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ
 ちひさかたふさふさのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ

ちひさかたふさふさのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ
 ちひさかたふさふさのちひさかたふさふさのちひさかたふさふさ



ゆきくしほつるのうもりあはら
 川のほとりからでつるうんとは
 みらさむいさうがうもいほいさう
 であげおのむがそくすじらあや
 みるよちりよとむあひさう
 みるらちいさうとむとむとむと
 むみしんがりけるよあうの人はあは
 とくおしうめくはく

新と
 まらうかららのやまぐらうとも
 新のともいあはぬなりけり



581

582

舟の山とみおのむらさきの
 雲のまきらりしやうら

あし
 のこまきりしやうら

ろの山とみおのむらさきの
 やまのぬまをさちげりわさのほを
 たしんほがしとせなりきさか
 くのやまのむらさきありけり

或説云塩尻上之物有其尻此似山物語習故好早詞寂連付信因先人
 令綴雄為塩事凡早之不因之性年有尋向人怪不知由云々

かたしゆていしんしん—の國はなほそまの
國のそまはなほそまのそまのそまのそま
そまのそまのそまのそまのそまのそま
そまのそまのそまのそまのそまのそま
そまのそまのそまのそまのそまのそま
そまのそまのそまのそまのそまのそま
そまのそまのそまのそまのそまのそま
そまのそまのそまのそまのそまのそま
そまのそまのそまのそまのそまのそま
そまのそまのそまのそまのそまのそま



しもぢらうき鳥らうとあやうら
 ちぎのおうまゐる水の人よあそび
 ついそくらよ家ようらゝあやうら
 みまみしらびらうとあやうら
 されるん都鳥とらうら

あやうら
 うらうら
 うらうら
 うらうら



首男びさの國をまじひありたたりさて
 うの國はあつたよふまじひたり父はと人よあは
 せんといひけり母もあつたる人よあは
 たりけり父はと人よあは母もあつたる
 さつらんあつたる人よあは母もあつたる
 ようそよそよそよそよそよそよそよそ
 りりみりのさつらん
 足よあつたのびりりもひさつたよ
 さつらんあつたる人よあは母もあつたる
 びさつらん

十一
 びさつらんあつたる人よあは母もあつたる
 さつらんあつたる人よあは母もあつたる
 うつらんあつたる人よあは母もあつたる

拾

十二
 びさつらんあつたる人よあは母もあつたる
 さつらんあつたる人よあは母もあつたる
 うつらんあつたる人よあは母もあつたる
 さつらんあつたる人よあは母もあつたる
 うつらんあつたる人よあは母もあつたる

あぐりの女

兼子

童

万葉

かなしくよきあそびの心かたむねをこころを
 ろるべかりける玉乃ををらり
 ちあはれびるびらりけるあそびのあはれと
 思ひたんのまきくねまかりたれあそびの
東国之習俗ヲクニト云
 兼もあそびなきまきよきあそびの
家持之
 まきよきあそびのまきよきあそびの
 とりふよねとてあそびるんまきよきあそびの
 かりりあそびのあそびのあそびのあそびの
 まきよきあそびのあそびのあそびのあそびの
 とりりあそびのあそびのあそびのあそびの
 かりりあそびのあそびのあそびのあそびの
 まきよきあそびのあそびのあそびのあそびの



びいぢみちのくうしてびでうとてかた人のめよ
うひけけうはあやううまわううとあるべお
ととあうびみえ々まじだ

あのおのひてううらもづ那
人のあうらのおくもみるぐく

かうざりかてがでうとねまどはうとび
あうびととみくうううづせんき

十六
まのありつひとら人ありらみよの
みまう文ま和つりてとれあひたれどのら

をせうらり所うらうたれど一のつひの人はと
もあうび人うきをうらうとあてりうち
とあこのてあや人よとまじまづうく

るてもやううらりし時のかながうのつひの
しもあうびうらあひされうあわうく

ととあまうづ井よあはよちりてあな中のさ文れ和
とらてなりうあへゆは男まうとよむつし

ままうしてなうらされづんまとゆととあ
まうあひたれまづうたれずんまうま

アうらあうまびくおんううあひうひを
ふともまらのりよまうくととまてまうう

ままうううまうまもえととづんまうま
あてたうう

ままううてあひみしとあうまま
とあまうひつううまへりたり

あつものびらうれとみくさつあまれとひりてい
ふものまぶとらつていある

年ごよとと幾なそいりりよけのを
いんひんひんひんひんひんひん
ひんひんひんひん

これこのあまのとびらもむびし
まごみまごみまごみまごみ
らびりてい

林やうあままごみと思ふまごみ

あつたなみごのあつたなみごありたる
十七 年はあつたなみごのあつたなみごありたる
あつたなみごのあつたなみごありたる

とよまれらるる人ともまららる

くさごさあつたなみごのあつたなみごありたる

きんごさあつたなみごのあつたなみごありたる

あつたなみごのあつたなみごありたる
あつたなみごのあつたなみごありたる

あつたなみごのあつたなみごありたる

あつたなみごのあつたなみごありたる

あつたなみごのあつたなみごありたる



五
 びりおきみおびるへしけりおのこころいぞ
 だちなりけり人ともわひちりこりさるがごと
 かくらきよさらたまひこころあをれをおの免
 見えみゆらものこころおとこあつものうとと
 かりひらこひめ
 ちと
 さよせうにありりかみゆりお
 とよあつたれたたとこぬ
 ちとあまぶとのよそんのもてあつこと
 りあつこらつら山の月とやこころり
 ちよありさぶもさたこあつ人とちあ
 りひげり

じう男がまはるあへおんみくもひ
 てわひよるりさそがどへう。えづくす
 人るりけきとえりらるらるらよやうひ
 りりらるえそのもみちららるらるらう
 とうらそおのめとはんらりらりひや
 ちがうあたをまらるたをまらるら
 くとも林のもみちりらるらるら
 らくやうらけきとえま事をまらり
 まつをそがんもくもくもくひる
 くのまららららららららら
 つまららんもくもくもくもく
 まららららら



まじくあるはらけはあひまうして思
ふはらけんと思ふはのこごうひらり
あるはらけはあひまうして思

あはと

なうごうはらけはあひまうして思

同

方のとらあひまうして思

とらあひまうして思

さくならりよけは

ひらり。さくならりよけは

ひらり。さくならりよけは

ひらり。さくならりよけは

あはと

ひらり。さくならりよけは

とらあひまうして思
あひまうして思
水のながれくさくさ
とらあひまうして思
さきのことどもさくならりよけは
林のよれらよれら
やらよーねぞわあひまうして思
あ
煉の夜乃らよと一夜よなをさうとも
ことどもさくならりよけは
伊よへららよあひまうして思
ひげら



三十一
 びらあまのつらさひりける人のよびもわれ
 むこうりぞいあそびさうどおこあふなりう
 けとむたとも女もさうらうしてありたれ
 男をこの女とさうえあと思ふ女のこの男と
 と思ひつたやのあはすれむさうそあんは
 けらさそこのあまあり乃男はりまらかあん
 片井つづの井つづいもさうまらつづを
 ちまがよけしれらもさうまらつづを
 色
 らららららららららららららららららら
 きいあららららららららららららららら
 ならりいりつ井つづがららららららららら



びーがーおのほはすのさう。たのまわ
 づーしよとくーがらあはーして
 けらまのふいふいふいふいふいふい
 ひらりたうらひとねんごうはひたう人
 うらひあまんたらざりさうけらう。
 この男さうらうらこの女あまをさう
 さげまどあまをさうらあまをさう
 たうけら

わる年の年うらまをさうらわひて
 たうまひらうふれまうすれ



天
 けいご
 けいご
 けいご

けいご
 けいご
 けいご

けいご

貞親十二年二月貞明親王^{あきらみ}御^み成^{なり}時^{とき}子^この^の女^め御^み依^よ春^{はる}
文治四年二月廿六日

二十九
 けいご

けいご

けいご

けいご

けいご



三十一
 ひろおととびるうらりける女のもこり

わよ事きまらぶつりおもがえんぐ

つしまあろのながくかんせらん

三十二
 せうらうのうららしくあつあつちつがほの

まへはまかりけるよまにのわこま思ひく

らやまはよるらんちがみんとり男

はともあぬ人とうけへむわきれ平

をのがうへよそとふとりのあな

とつとほこびをありけり

三十三
 ひろおととびるうらりける女のもこり

右今あつちのうららしくあつあつちつがほの

三十四
 ひろおととびるうらりける女のもこり

三十五

とつりきだにがふも思つてやありけり
 昔男はのこびつぐのこやよがうひたる
 けいびのあてふいふと思つてうさき男
 上奇あふらみらくるちやのらまよ
 桑あふらみらけりひすん那

あふらみらけりけりけり
 毎ふらけりけりけり
 料あふらけりけりけり
 けりけりけりけりけり
 けりけりけりけりけり
 けりけりけりけりけり

たもたてつるなるへし

けりけりけりけりけり

あふらみらけりけり

たえくのねもあふらみら

けりけりけりけりけり

女のこころ

あふらみらけりけり

あふらみらけりけり

けりけりけりけりけり

けりけりけりけりけり

あふらみらけりけり

あふらみらけりけり

四三
 春田の家のいふ言ひをききしとて
 仕草のきく言ひなきなりきりきり
 くれよな言ひなき言ひなき
 してえのあつた言ひなき
 言ひなき言ひなき
 言ひなき言ひなき

四三
 谷陽親王植家第廿七母夫人多治院氏三ノ御孫公貞親十三月八日薨七十八
 昔がやのみこととほくをさおりしはなかりのまゝなり

おとよ言ひし言ひなき言ひなき
 まひける言ひなき言ひなき
 ひさの言ひなき言ひなき
 ほの言ひなき言ひなき
 かな言ひなき言ひなき
 といひの言ひなき言ひなき
 たの言ひなき言ひなき
 り言ひなき言ひなき
 とき言ひなき言ひなき
 け言ひなき言ひなき

四四
 びらあつてくへんあつてのふらふらあつてん
 とくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 いふくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 けんんんんんんんんんんんんんんんんんんん
 ぶゆひつあつて

いごいごいごいごいごいごいごいごいごいごいご
 わきしんもかきまりあつてあつてあつてあつて
 こくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 だめしよあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 四五
 男あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 この男あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

くるわあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 とくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ねやあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ひさあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 をあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 さいあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ちあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 わあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

後撰
 ねくねくねくねくねくねくねくねくねくねくねく
 ねくねくねくねくねくねくねくねくねくねくねく
 くのくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 うのくくくくくくくくくくくくくくくくくくく



五十一

五十二

四十六

じつれとてふくふくさうらうらふもありたり
 こいささきあひらめひけりよりの國らのあ
 けらげらあられおもしりてはせんけりけり
 月日くおのこくさうらあふくさうらえん
 めんさく月日のよらさうらあふくさうら
 けんせんさうらさうらあひらめひけりよりの
 の人れをさあづらさうらあふくさうらえん
 ああさうらさうらあふくさうらえん

四十七

けんくさうらさうらあふくさうらえん
 とあふくさうらあふくさうらえん
 じつれとてふくふくさうらあふくさうらえん
 けりよりの國らのあふくさうらえん

あつちのうらなひをうらなひ

あつちのうらなひをうらなひ

あつちのうらなひをうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひをうらなひ

あつちのうらなひをうらなひ

あつちのうらなひをうらなひ

あつちのうらなひをうらなひ

あつちのうらなひをうらなひ

あつちのうらなひをうらなひ

